

次の“20年”のために、今、振り返る



おかげさまで
合併20周年

JA香川県の「20年」



合併と同時に誕生した、
JA香川県のシンボルマーク

覚えていますか？ 合併の経緯

1991年、「第19回全国農協大会」で、広域合併(21世紀までに1000農協化)による自己責任体制の確立、事業・組織2段階への移行が提起され、全国的に合併の機運が高まっていました。

当時、香川県には47の農業協同組合(単位農協)が存在していました。1988年2月に開かれた「香川県農協50周年記念大会」において、「県単農協の早期実現に関する決議」が採択され、同年6月には「香川県単一JA合併推進協議会」が発足。合併に向けての取り組みが加速しました。

そして2000年4月、43農協が合併して「JA香川県」が発足。当時としては、奈良県に次いで大型の合併と、全国的な話題になりました。

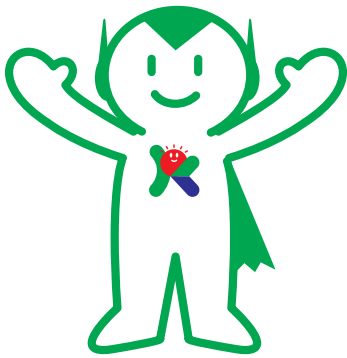
その後、2003年4月にはJA高松市、2013年4月にはJA香川豊南が合併。JAならけん・JAおきなわに続く全国3番目の「1県1JA」となったのです。

合併後も改編を重ね より時代に即したJAへ

合併当初は、旧43農協を28の支部(JA高松市の合併後は29支部)に再編した独立採算制の組織編成でした。その後、2004年に経営構造改革を実施。信用・共済事業は本店・支店直結方式、営農経済事業は営農センター・支店方式に改編。2007年には営農センターも包摂した6地区本部制となりました。

2010年には、本店と支店の情報伝達経路の短縮を図る目的で、「本店→取りまとめ店→支店」体制に移行。その後、取りまとめ店は「統括店」に名称変更し、JA香川豊南との合併後は18統括店、7営農センターとなって現在に至ります。

また、1996年の農協法改正で導入された経営管理委員会制度が、同年7月から当JAにも導入されました。県下から選ばれた組合員の代表(女性や青年も含む)が経営に参画することで、より幅広い意見をスピーディーに経営に反映させようという取り組みです。



オリジナルキャラクター
「香川大好きJAマン」
も誕生しました

- | | | | | | | | | | |
|------------------------|----------------------------|--------------------------|--|-----------------|-------------|-------------|---------------------------------------|------------------------------------|------------------------|
| 2019年 3月 | 2014年 10月 | 2013年 4月 | 2010年 7月 | 2009年 8月 | 2007年 6月 | 2003年 4月 | 2001年 10月 | 2001年 4月 | 2000年 4月 |
| 「讀さんファーム」オープン 体験型農園 | 「讀さん広場」オープン ファーマーズマーケット | JA香川豊南と合併 (1県1JAスタート) | 17統括店6営農センター体制の実施 (2013年4月から18統括店 7営農センター体制) | JA香川県合併10周年記念式典 | 6地区本部体制の実施 | JA高松市と合併 | 香川県経済連・ 香川県青果連・ 香川県施設連の 包括継承 | 統一広報誌「きらり」創刊 (当時の誌名表記は「Kilari」) | JA香川県設立 (県下43JAが合併) |



きらり創刊号表紙



「讀さん広場」
オープン

オリジナルブランド開発と データで見る、20年のあゆみ



ミニティアラシリーズ

オリーブ牛

さぬきの夢

さぬきひめ

さぬきのめざめ

てまりシリーズ

個性豊かで高品質な“香川県オリジナル”の 農畜産物が、20年で続々と誕生しました



野菜の主な品目で生産状況を比較してみました。

